

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和8年3月31日 (第1回)
目標年度	令和17年度
市町村名 (市町村コード)	安城市 23212
地域名 (地域内農業集落名)	池浦町農用地利用改善組合 (池浦)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	23.4 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	22.9 ha
② 田の面積	22 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	0.9 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

近年、市街化が進み農家、農地が減少にともない後継者不足。現状、認定農業者中心に稲作・畑作・果樹農業を維持、管理を継続している。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

水稻に代わる作物栽培については未定。当地域の少ない面積を有効な活用で付加価値のある農作物を模索

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

農地の集積・集約化を基本に考え、貸し手の要望等もふまえて担い手を中心とした地域営農の耕作地を最低限確保・維持する。

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	47.6 %	将来の目標とする集積率	69 %
--------	--------	-------------	------

(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標

担い手が利用する農地の集団化はほぼ完了している。

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
担い手を中心に集積・集約化を進め、農地利用推進委員と農地相談員と調整・見直しをして、農地バンクを通じて進める。
(2)農地中間管理機構の活用方法
所有者の貸付意向を配慮し担い手の経営意向を含めて集積・集約化を農地利用推進委員と農地相談員と調整していく。
(3)基盤整備事業への取組
基盤整備事業についてはほぼ完了している。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
JAと連携し地域農業の魅力を発信して稼げる農業を目標に担い手を確保
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
JA、市町村とのパートナーシップを継続

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④輸出	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/>	⑩その他
【選択した上記の取組内容】									
①ジャンボタニシの未然防止対策									
②安城農林高等学校の堆肥の活用。農薬・肥料等、JAと連携									
③農作業の省力化のためドローンを活用									
⑤特産の梨・イチジク栽培を通じて、地産地消のPR									

